

4 海女の風習

海はたくさんの自然のめぐみを、海女たちにもたらしてくれます。しかし、その恵みを得るための作業、つまり潜る作業はひとつ間違えれば死と隣り合わせの危険にあふれています。

災いから身を守ろうと海女たちには、むかしから多様な信仰や独特の風習がありました。ことに、海女は海中で孤独です。酸欠状態になり息が絶える寸前までいく。海藻に引っかかったり、岩礁の割れ目に手が挟まり、浮き上がれない……。また、アワビなどの獲物は水温の変化や餌となる海藻の生育に左右されて、好不漁の年があります。

危険や不漁をまぬがれたいという気持ち、安全で大漁を願う気持ち。海女の祈りがさまざまな形になって今も生き続けています。

魔除けのまじない

潜水作業中に海女たちは魔物にでくわすことがあるといいます。そんなときの魔除けに、海女はまじないを磯テヌグイや磯ノミにつけています。海女たちがクス(迷信深い)なせいもありますが、海の底でひとりで仕事をするという、その過酷さゆえでありましょう。

● 海の魔物

海深くもぐっていくと、自分と同じ身なりの海女がいて、ニヤリと笑いかけて手を引いて暗い中へ誘い込もうとしたり、時にはアワビを差し出すことがあるそうです。浮き上がってあたりを見渡しても、自分以外は何もない。不思議に思ってまたもぐると、やっぱりいる。それがトモカズキです。

アワビをもらったり、誘いにのれば、たちまち海中深く引きずり込まれて命を落としてしまう。また、網をかぶせられることもあって、そのときはもう助からないといわれています。

ほかにも、サンショビラシ(チクチクとさす生物)、シリコボシ(お尻から生き肝を抜く化け物)、ポーシン(船幽霊)、ヒキモーレン(海の亡霊)などの魔物がいるといわれています。



● ネズミ鳴き

海女は潜水作業を始める直前、潮を口に含み、船端や磯桶の縁をアワビオコシで叩いて「チュッチュッ」「ツヨツヨ」といったネズミ鳴きといわれる呪文を唱えます。これも魔よけのまじないの一つです。

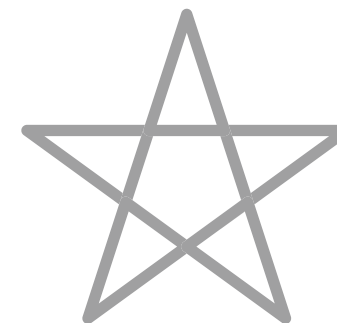
● セーマンとドーマン

磯テヌグイや襦袢などに、星形の印(セーマン)と格子状の印(ドーマン)が、貝紫で染めたり黒糸で刺繍されているのを見かけます。海女たちが危険や怪奇現象から身を守ろうというまじないです。

セーマンとドーマンが並んだもの、上下になったもの、またセーマンだけのものなど、鳥羽や志摩の地区ごとでそのデザインに違いはあるようですが、磯ノミや磯メガネなどにも描かれています。星形は一筆書きで元の位置にもどり、始めも終わりもないことから魔物の入り込む余地がなく、格子は多くの目で魔物を見張るとも、出入口が分からず悪魔が入りにくいともいわれています。

また、陰陽道と関係するともいわれ、セーマンは安倍晴明、ドーマンは芦屋道満の名に由来するともいわれています。

海中でセーマン・ドーマンを身に着けていない海女に出会ったら……それはトモカズキです。

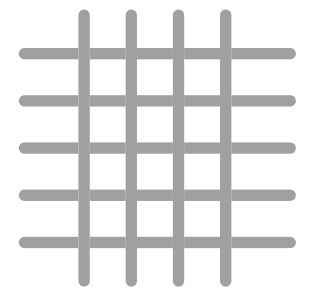


セーマン

一筆書きのため魔物が入らないといわれる安倍晴明の星印。



磯テヌグイに縫い付けたセーマンとドーマン。



ドーマン

修験者が唱える「臨兵闘者皆陣列在前」の印・九字(く)に由来するとされている。